

「県民の意見を聞く会」でいただいた主な意見・提言

計画全体

- ・ 環境問題だけでなく、経済・社会・文化などを含めてトータルの社会のビジョンを作り、より横断的・立体的・有機的な計画にして欲しい。
- ・ 環境問題は広く、総花的なものより特化した取組を盛り込んで欲しい。
- ・ 市町村の計画と連動させて欲しい。
- ・ 中国山地・吉備高原など4つのエリアと合わせて、三大河川エリアをクロスして表現して欲しい。
- ・ 目標は、全国順位など将来の本県がどうなるかわかりやすく示すことが重要だ。

基本目標1 地域から取り組む地球環境の保全

- ・ 公的施設にこそ太陽光発電を設置すべきだ。
- ・ 食物やエネルギーの地産地消が環境や経済に好循環をもたらす地域活性化にも結びつく。モデル地区の指定などができないか。
- ・ エコドライブは、ディーラーやガソリンスタンドでの啓発、あるいは免許の更新時の講習会などでさらなる普及促進ができないか。
- ・ 駐輪スペースの設置やノーマイカーデー割引などにより、自転車や公共交通機関の利用を一層促進すべきではないか。
- ・ 県内は水力発電の適地が多く、既存設備の更新でもかなりのエネルギーを得られるのではないか。
- ・ 電気自動車の充電スタンドの整備を進め、コンビニ等に設置（売電）できるような仕組みづくりが必要ではないか。
- ・ 温室効果ガス排出規制の公表で、全国展開している企業については、企業全体の取組についても考慮して行って欲しい。

基本目標2 循環型社会の形成

- ・ 「排出抑制・資源化率」の算出過程が不明瞭で理解しづらい。
- ・ 生ゴミの減量化が問題で、リサイクル（堆肥化）について継続可能なシステムづくりが必要だ。
- ・ ノーレジ袋デーの取組により事業者の意識も変わったので、是非運動は続けて欲しい。
- ・ 導入が遅れている中小企業への電子マニフェストの促進が必要だ。
- ・ 目標の定量化などにより循環資源マッチングシステムの利用促進を図って欲しい。
- ・ 一般廃棄物の分別方法の統一化を図ってはどうか。
- ・ ごみのポイ捨てが後を絶たず、大人のマナーが悪い。

基本目標3 安全な生活環境の確保

- ・ 光化学オキシダントについて、海外からの移流などの要因もあり大気中濃度が増加傾向にある。しっかりと対応した上で、海外とも連携していくべき。
- ・ 瀬戸内海の環境保全対策は十分でない。県民全員がそのすばらしさを知って保全に取り組むべきだ。

- ・ 水質汚濁負荷の主要な発生源は、家庭からの生活排水であることを広報し、各家庭でできることを考え実行する環境を整えたい。
- ・ 児島湖のCOD値を改善するメリットを良く分かるように示すべきである。
- ・ 都市部こそ用水路など水際の植栽が重要だ
- ・ 農業は肥料を多く与えるもので余分な肥料は河川に流れる。施肥技術指導を広めることが環境保全にも重要だ。

基本目標4 自然と共生した社会の形成

- ・ 身近に自然にふれあえる観察施設等を市町村が計画的に設置できるよう県の支援が必要だ。
- ・ 里山の保全が必要で、その面積を目標に掲げ取り組んではどうか。
- ・ 自然とふれ合い、ストレス解消の場ともなる森林の利用を呼びかけて欲しい。
- ・ イノシシの農林被害は依然として大きいですが、シカも増えている。

推進目標1 参加と協働による快適な環境の保全

- ・ 環境教育の基盤整備のため、環境NPO、NGOが継続的に活動できるような支援体制を確立することが必要だ。
- ・ 子どものころからの環境教育が必要で、公教育を補う意味でも、県で統一した人材のマッチング制度があればさらに取組が進むのではないかな。
- ・ 個人の家も景色の一部で公共物であるという意識を持ち、街並み群を保全する施策に積極的に取り組んで欲しい。

推進目標2 環境と経済が好循環する仕組みづくり

- ・ 企業経営にとってメリットのある環境経営の普及を官民挙げて推進すべき。
- ・ 国際貢献に関して、水島企業やNPO等との連携による具体的な施策を検討してはどうか。
- ・ 環境マネジメントシステムの導入にあたり、補助金ではなくコンサルティングや説明会の開催などによる支援を考えて欲しい。
- ・ 環境ビジネスについては、経済にどのように結びついたか、成果を明らかにすることが必要だ。

計画の進め方

- ・ 県の取組が県民にわかりやすく、目に出来るような仕組みを考えて欲しい。明確な数値で示す体制を構築してもらいたい。
- ・ 関係団体等が集まり、それぞれの役割が確認できる機会を設けて欲しい。
- ・ このような会を、今後定期的に開催し、進捗等を説明して欲しい。